

# 計画策定の進め方

〈2018 年度・2019 年度予定〉

南丹市子ども・子育て支援事業計画

南丹市子どもの貧困対策整備計画

# 《1》子ども・子育て支援事業計画の策定

2018年度

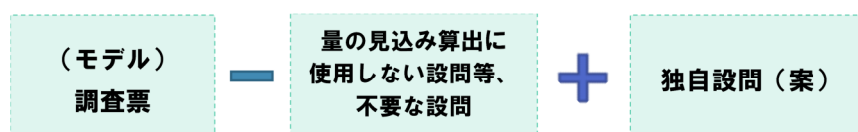
## 1. ニーズ調査の実施

### ①調査対象

○子ども・子育てに関する実態とニーズを把握するため、小学校就学前子ども及び小学生の保護者を対象とするアンケート調査を実施します。

### ②調査票の作成

○「量の見込み」の算出等の考え方を踏まえ、第1期の（モデル）調査票から不要な設問を削除するとともに、京都府や市独自の設問案の追加を含めた設問構成の検討を行います。



### ■幼児教育・保育無償化の影響について

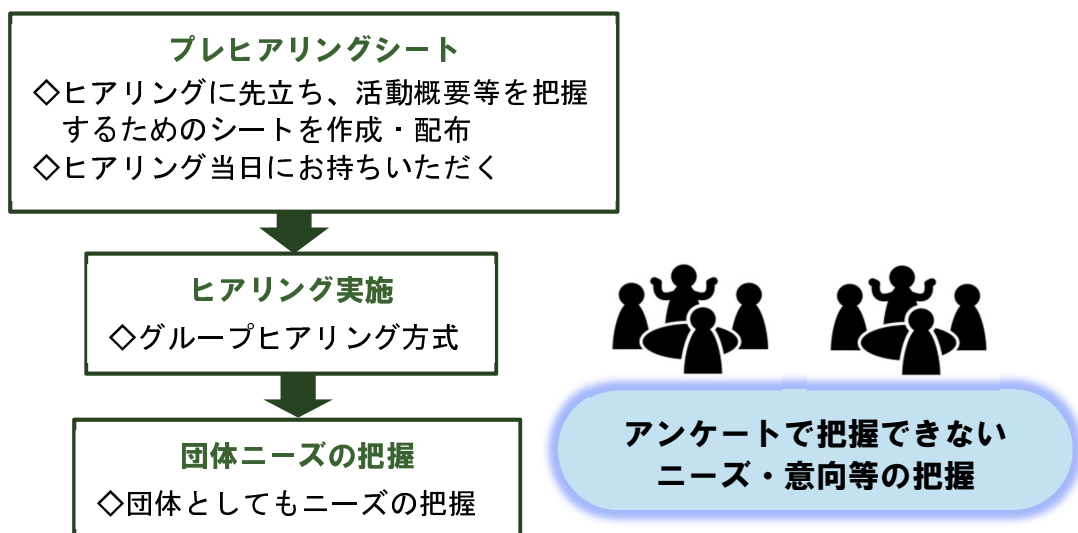
○幼児教育・保育の無償化については、保護者の注目が集まっているところです。  
○今回のニーズ調査では幼児教育・保育の無償化による影響を把握することが重要です。

### ③集計・分析

○回収後は速やかに入力・単純集計を行い、単純集計結果については速報（単純集計表）として報告させていただきます。  
○その後は、クロス集計等の分析を行い、「アンケート調査報告書」としてとりまとめます。

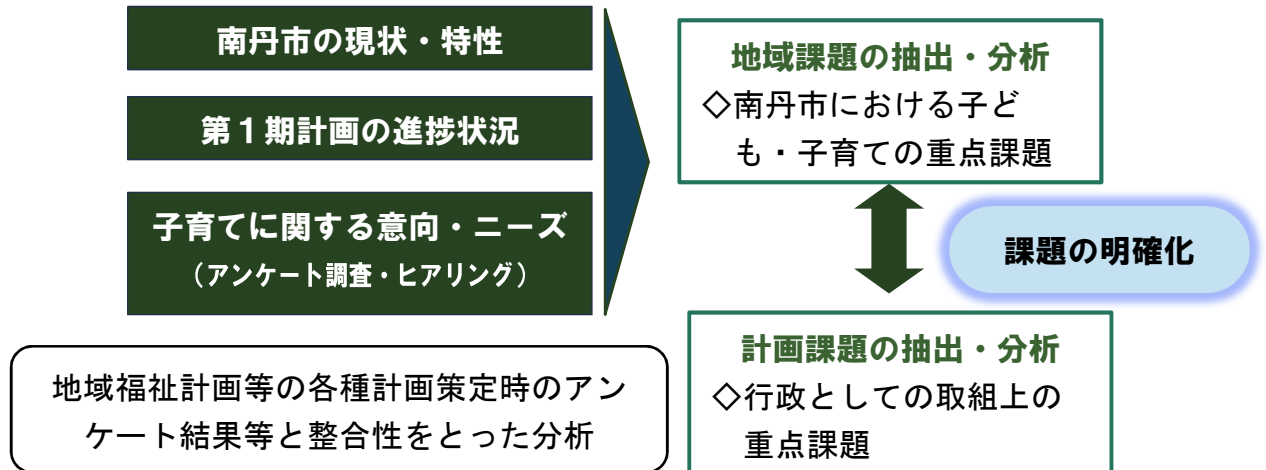
## 2. ヒアリング調査の実施

○アンケート調査では把握しきれない定性的な子ども・子育てニーズ等を把握するため、子育て関係団体を対象にヒアリング調査を行います。



### 3. 調査結果報告

- ニーズ調査とヒアリング調査結果をとりまとめた報告書を作成するとともに、結果を説明します。
- ここまでの調査・分析結果を踏まえ、子ども・子育て支援事業計画に向けての地域課題・計画課題について、抽出・分析します。



### 4. 南丹市子ども・子育て会議への支援【共通】

- 南丹市子ども・子育て会議（2回想定）に際しては、オブザーバーとして会議出席、必要に応じて資料説明を行います。

<開催時期・テーマ（案）>

子ども・子育て会議		開催テーマ	主な資料
第2回	11月	◆アンケート調査票について	◆調査票（案）
第3回	3月	◆アンケートの結果概要 ◆子ども・子育ての重点課題について	◆アンケート結果概要 ◆重点課題

## 2019年度

### 1. ワークショップの開催支援（ワールドカフェ方式）

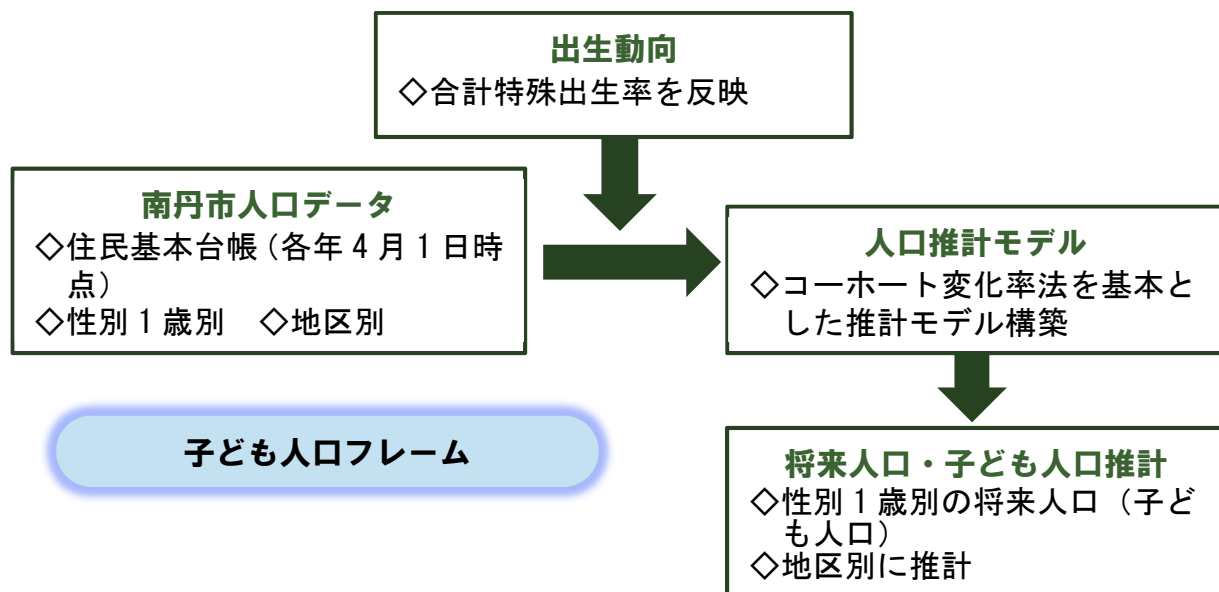
- 子育てサークル等へリラックスした雰囲気の中、メンバーをシャッフルしながら対話を続けることにより、参加者全員の意見やアイデアを集め、課題解決に向けて取り組むべきことを考える機会とすることを目的にワークショップを行います。



## 2. 計画書の作成

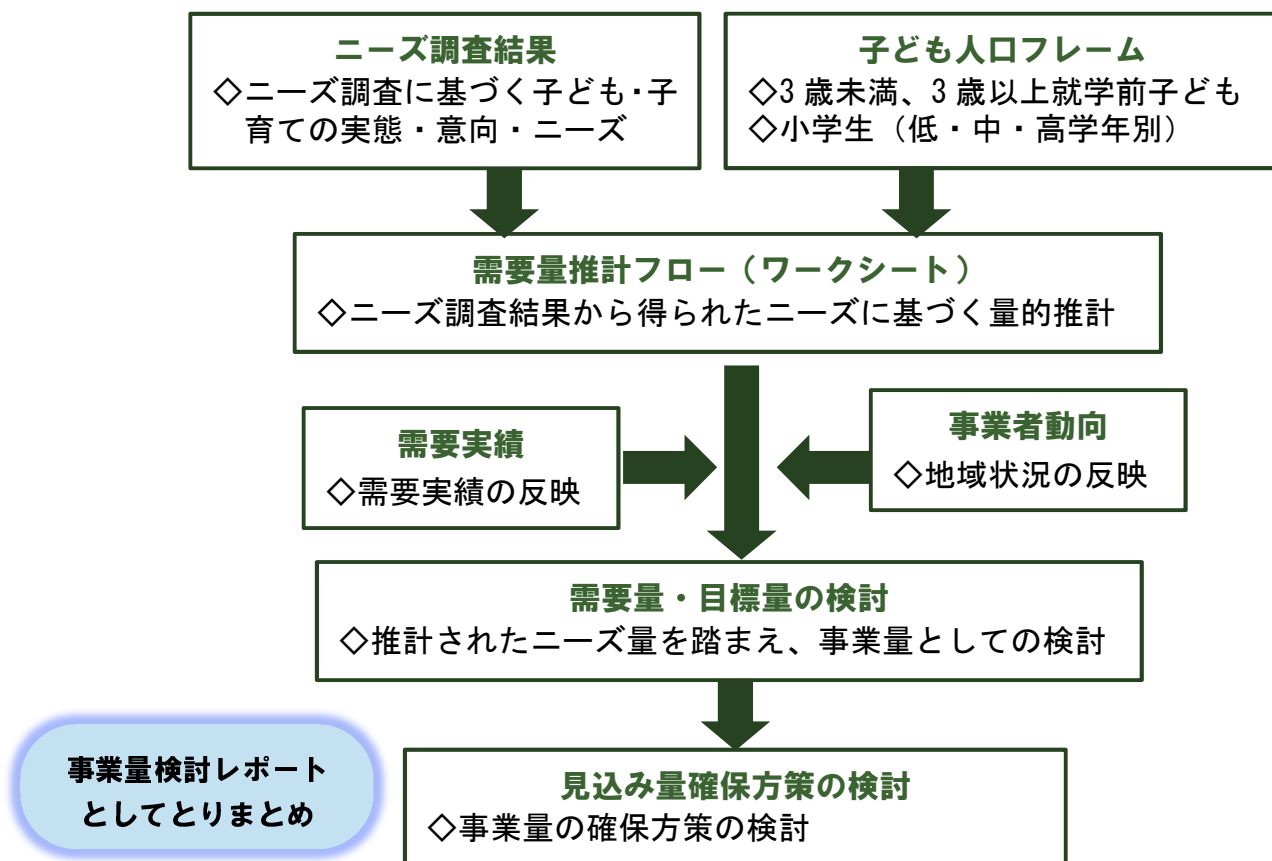
### ★ 将来人口の推計【共通】

○将来における子ども・子育てニーズ量を推計するためのフレームとして、市の将来人口の推計を行います。



### ★子ども・子育てに関するニーズ量及び事業量の分析・推計と確保方策

○ニーズ調査結果や需要実績等に基づき、国の示す推計フローによる子ども・子育てニーズ量の推計並びに事業量の検討を行います。



### ① 計画骨子案の検討

○第1期計画の業務成果等を踏まえた上で、南丹市における「第2期子ども・子育て支援事業計画」の基本方針等について検討・設定します。

- 主な検討・設定項目
  - ◇計画ビジョン（南丹市がめざす子ども・子育てビジョン）
  - ◇ビジョン達成に向けた基本方針
  - ◇計画書としての全体構成

### ② 計画（素案）の検討・作成

○先に検討した計画の基本方針や計画構成等に基づき、計画（素案＝パブリックコメント対応）の検討・作成を行います。

- 主な検討の視点
  - ◇「子ども・子育て支援法」第61条に対応した計画記載
  - ◇次世代育成支援的な視点にも留意
  - ◇南丹市としての子ども・子育てビジョンを明らかにする
  - ◇簡潔でわかりやすい計画書



- 次世代育成的施策を含め、関連各課への対応施策把握調査を行う  
⇒対応施策情報シートを作成し、各課へ配布、情報記載の依頼

### 3. 南丹市子ども・子育て会議への支援【共通】

○南丹市子ども・子育て会議（4回想定）に際しては、オブザーバーとして会議出席、必要に応じて資料説明を行います。

<開催時期・テーマ（案）>

子ども・子育て会議		開催テーマ	主な資料
第1回	5月	◆計画の基本方針について ◆計画策定の進め方	◆基本方針検討案 ◆策定スケジュール
第2回	7月	◆事業量の検討	◆計画骨子案
第3回	11月	◆計画（素案）について ◆パブリックコメントの予定説明	◆計画（素案）
第4回	1～2月	◆子ども・子育て支援事業計画（原案）の報告	◆計画（原案）

#### 4. パブリックコメントの実施支援

○パブリックコメントの実施に際しては、PDFファイルの作成（市ホームページ掲載用）や寄せられたコメントの整理・対応検討等の支援を行います。

#### 5. 計画書の原稿作成と計画書の印刷等

○計画（素案）をベースに、パブリックコメントを踏まえた反映・修正等を行うとともに、概要版を作成します。

## 《2》子どもの貧困対策整備計画

2018年度

### 1. 実態調査の実施

○回答者の負担軽減の観点から、同時期に実施する「子ども・子育てニーズ調査」とは、対象者が重ならないように配慮します。

#### ①調査の考え方

##### ～ 子どもの貧困を多視点から捉えることが重要 ～

- “貧困”の様々な姿・実態を捉えるために、アンケートにおいては“格差＝社会的排除”、つまりは収入だけではなく、就労やサービス享受、社会的関係など、様々な視点からの問いかけをすることが重要になってきます。
- こうしたアプローチをすることによって、“貧困”問題の多様性を浮き彫りにし、“貧困”特性に応じた解決策を検討することが可能になります。

##### 暮らしに密着した身近な指標について考える

##### ～ “合意基準アプローチ”という考え方 ～

- 子どもが幸せに暮らすために、その経済的状況等に関わらず、一人ひとりに与えられるべき環境やモノ（衣服・文具など）があるはずです。
- 子どもが保有すべき環境・モノは何であるのか？ について、アンケート調査を通じて保護者の認識を把握し、そこから導かれる合意基準に基づいて、個々の子どもたちの環境・モノの保有実態を把握することにより、与えられるべき環境・モノが欠けている子どもという視点を得ることができます。
- こうした手法を“合意基準アプローチ”といい、南丹市独自の“幸福実現指標”とすることが可能になります。

## ②実態把握と政策立案のための集計・分析

### ～ 集計・分析における3つの方針 ～

○集計・分析にあたっては、効果的な支援策の検討を行うための有効な情報を獲得できるように、次の3つの方針に基づき、これを行います。

#### 方針1 支援において優先すべき必要度の高い子どもの状況を把握

- ◆支援プロセスにおいては、生活保護世帯の子ども、ひとり親家庭の子どもなど、支援の必要度の高い子どもに対して優先的に施策を講じる必要があります。
- ◆そのためにも、支援の優先ターゲットとすべき子どもやその世帯の状況について、定量的・定性的に把握することが重要になります。

#### 方針2 支援すべきターゲットのニーズの多様性を把握

- ◆定量的・定性的に把握されたターゲットについて、経済的貧困状態に起因して求められている支援ニーズを明らかにする必要がありますが、それはニーズ量を把握することを主眼とするものではなく、ニーズの多様性を把握することがより重要であると考えます。
- ◆基本的にはニーズ量と現実の需要（デマンド）量は異なるという現実も認識しておく必要があります。

#### 方針3 多様な支援ニーズと“貧困”との関係性を整理

- ◆把握された多様な支援ニーズについて、貧困であることとの関係性を分析・整理することが重要であり、そうした分析・整理によって“貧困対策”を講じることの有効性を担保することになります。
- ◆本業務の先に想定される支援策検討プロセスについては、次のようにイメージすることができます。

#### 【想定プロセス】多様な支援ニーズに対応した目標指標の設定

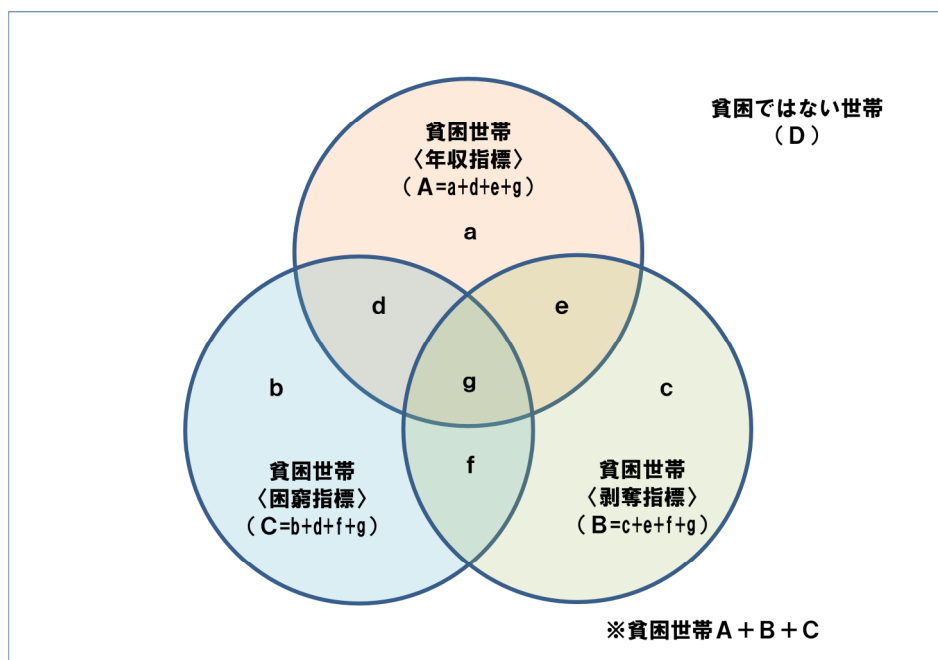
- ◆貧困であることとの一定の関係性が明らかにされた支援ニーズについては、“貧困対策”を通じての問題・課題の低減・解消が期待されるため、そうした多様な支援ニーズに対応した今後の目標指標の設定を行うことが政策的に可能になります。

#### 【想定プロセス】設定された目標を達成するための“貧困対策”の施策化

～ 3つの視点からの貧困＝生活困窮の把握 ～

○子どもの貧困の実態を多様な視点から把握するため、次の3つの視点からの貧困把握・判定を提案します。

南丹市版の 貧困指標	判別基準
年収指標	◇厚生労働省「平成 28 年国民生活基礎調査」から算出される等価世帯所得による貧困ライン 136 万円に基づく判定
困窮指標	◇経済的な理由で、公共料金や家賃を支払えなかった経験や食料・衣類を買えなかった経験などに基づく判定
剥奪指標	◇経済的な理由で、子どもの体験や所有物などの付与状況・環境に基づく判定



○3つの視点・指標に基づき、貧困世帯を判定することにより、貧困に対する多視点アプローチを実現するとともに、判定結果についても階層化を行うことが可能になります。

## 2. 資源量調査（アンケートとヒアリング調査）

○資源量を把握するため、福祉や教育関係課に対する庁内調査、地域の子育て支援団体（NPO法人を含む）へのアンケート調査の他、ヒアリングを実施します。

### [調査設計と調査対象設定]

○前提として、多様な支援ニーズに対応するための“資源（シーズ）”について明確にしておく必要があり、そのためのアプローチとして、次のような資源タイプの類型化を踏まえた検討が有効であると考えます。





## c. 調査結果報告

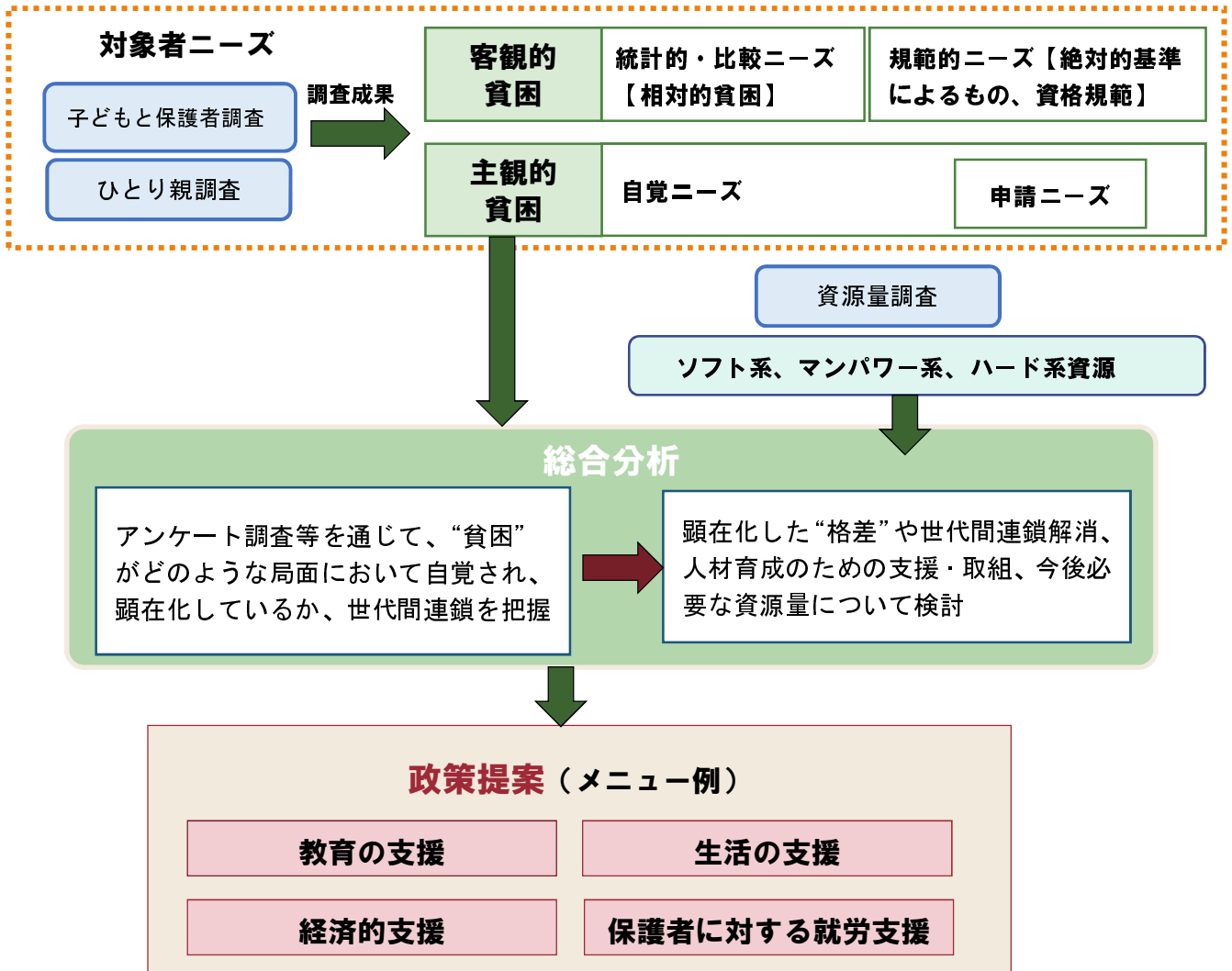
### ～ 貧困指標の設定とクロス集計による格差の可視化 ～

- ここまでの調査・分析結果等を踏まえ、「子どもの貧困に関する実態調査報告書」としてとりまとめます。
- 報告書については、右掲のとおり、アンケート調査に関する報告と資源量調査に関する報告により、構成します。

<b>実態調査報告書</b>	
1	アンケート調査
	・ 調査の概要
	・ 貧困（生活困難）の定義と状況
	・ 集計結果
2	資源量調査
	・ 対象とする資源
	・ ヒアリング調査結果
	・ 現在のニーズと資源量
	・ 今後想定されるとニーズと必要な資源

## ～ 支援策検討に資する有効な分析を行うために ～

○集計・分析にあたっては、4種の調査それぞれで完結する分析だけではなく、4種の調査成果を総合的に分析することが重要であり、そうすることによって、今後の支援策検討プロセスにおいて有効となるような分析成果を獲得することができるものと考えます。



2019年度

### 1. ワークショップの開催支援

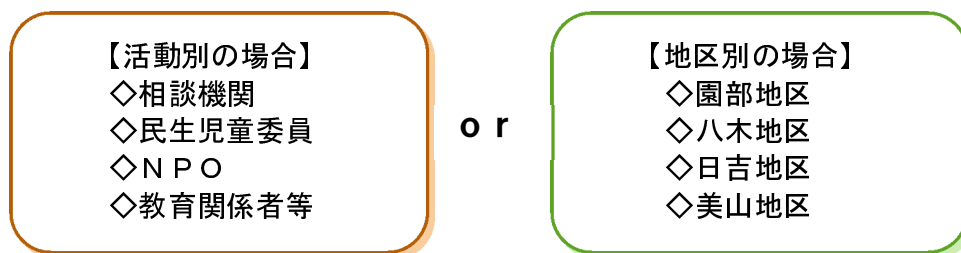
○アンケート調査やヒアリング等の結果を踏まえ、住民参加の子どもの貧困に関するワークショップを開催し、本市における地域福祉の問題・課題や求められる取組、その解決方法等についてのご意見・ご提案をいただきます。

#### ワークショップのテーマ例

第1回 子どもの貧困課題を確認・抽出

第2回 解決するために個人ができること、地域でできることを検討・提起 等

○開催にあたっては分野別または地域別でグループを作り、延べ2回程の度開催を基本とします。



## 2. 計画書の作成

### ① 計画骨子案の検討

○国の「子供の貧困対策に関する大綱」や国の指標、京都府子どもの貧困対策整備計画を踏まえた上で、南丹市における「子どもの貧困対策整備計画」の基本方針等について検討・設定します。

- 主な検討・設定項目
  - ◇計画ビジョン（南丹市がめざす子どもたちの希望と幸せの実現に向けたビジョン）
  - ◇ビジョン達成に向けた基本方針

### ② 計画（素案）の検討・作成

○先に検討した計画の基本方針や計画構成等に基づき、計画（素案＝パブリックコメント対応）の検討・作成を行います。

- 主な検討の視点
  - ◇南丹市としての子どもたちの希望と幸せの実現に向けたビジョンを明らかにする
  - ◇簡潔でわかりやすい計画書



- 関連各課への対応施策把握調査を行う
  - ⇒対応施策情報シートを作成し、各課へ配布、情報記載の依頼

## 3. パブリックコメントの実施支援

○パブリックコメントの実施に際しては、PDFファイルの作成（市ホームページ掲載用）や寄せられたコメントの整理・対応検討等の支援を行います。

## 4. 計画書の原稿作成と計画書の印刷等

○計画（素案）をベースに、パブリックコメントを踏まえた反映・修正等を行うとともに、概要版を作成します。